



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.2 2005.11



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センター ニュースレター

目次

		ページ
● イベント報告	君はビル・ゲイツになれるか	2
	研究・技術計画学会第20回年次学術大会	2
	日米の技術政策の相互啓発とそのEU技術政策へのインパクト	2
	成功に導くシステム統合の論点	2
● 海外活動報告	Asian eBusiness Workshop	2
	経済成長の源泉ワークショップ	3
● コラム	基礎技術を製品化するための技術	3
● 学生の目	日本人と洋服	3
● 最近の動き	海外出張・研究者招聘	4
● イベント予定	研究・技術計画学会 国際問題分科会	4
	第2回年次国際シンポジウム	4
● 連絡先		4

東京工業大学では、21世紀COEプログラム「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」遂行の中核センターとして、「インスティテューショナル技術経営学研究センター (SIMOT リサーチセンター)」を設置いたしました。
同センターの研究内容・活動を、広く内外に知っていただくことを目的に、毎月ニュースレターを刊行しております。

■ イベント報告 ■

「君はビル・ゲイツになれるか」 in 工大祭 2005 (10月22日(土)、23日(日) 東京工業大学)

東京工業大学文化祭(工大祭)において、21世紀COE関連企画として「インスティテューショナル技術経営学」の紹介をかねた出展企画「君はビル・ゲイツになれるか」を実施しました。エニアグラムを用いた10分間の性格診断テストにより、将来の職業を考えるきっかけをつかんでもらう他、高校生向けの進路相談なども行い、両日あわせて約550名の来客を得て大盛況となりました。



研究・技術計画学会第20回年次学術大会 (10月22日(土)、23日(日) 政策技術研究大学院大学)



政策技術研究大学院大学において、今年で20回目の節目を迎える研究・技術計画学会年次学術大会が開催されました。昨年の年次学術大会がSIMOTの研究分野と関連付けた「日本型技術システム再考」とのテーマで開催されるなど、本学会はSIMOTとは関係が深く、今年度の学術大会においても、SIMOT事業推進担当者・特任教授・RAなど、SIMOT関係者が31の研究発表を行いました。



SIMOT事業推進担当者・特任教授・RAなど、SIMOT関係者が31の研究発表を行いました。

日米の技術政策の相互啓発とそのEU技術政策へのインパクト (10月31日(月) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会 国際問題分科会では、毎月様々な国・分野の研究者をゲストとして招聘し、それぞれの専門的知識・観点から、インスティテューショナル技術経営学への示唆を検討しています。10月例会は、国内外からの23名の参加者のもと、仏リヨン大学教授であり東京大学経済学部客員教授でもあるアラン・マークリュウ教授に、「日米の技術政策の相互啓発とそのEU技術政策へのインパクト」とのテーマで講演していただきました。



成功に導くシステム統合の論点 (10月28日(金) 東工大 キャンパスイノベーションセンター国際会議室)

SIMOT研究センター員 飯島淳一教授が主査を務める、システム統合特設研究部会(経営情報学会)によるシンポジウム『成功に導くシステム統合の論点 - ビジネス・システムと統合した情報システムが成否の鍵を握る -』が、「システム統合を成功に導くためには何が必要なのか」に関する2年間の研究活動をまとめた報告書の出版を記念して行われました。



主なメッセージは、システム統合におけるもっとも重要なポイントは、(1)ビジネスアーキテクチャと統合した情報システムアーキテクチャにもとづくシステムを構築することと、(2)変化に強く、柔軟なシステムを実現することである、というものです。技術だけを取り出して語るができないということは、まさに技術経営の根本的な思想です。



■ 海外活動報告 ■

The 5th Asian eBusiness Workshop (8月24-27日 韓国 済州 (JEJU))

韓国随一の国立大学である韓国科学技術院(KAIST: Korea Advanced Institute of Science and Technology)主催のワークショップがあり、韓国・日本・中国から多数の研究者が集いました。SIMOTからは、センター員である飯島淳一教授、曹徳弼助教授、妹尾大助教授が参加・研究発表を行いました。

関連 HP: <http://z4you.kaist.ac.kr/ebiz/>



経済成長の源泉ワークショップ (10月24日, 25日 オーストリア ウィーン)

国際応用システム分析研究所 (IIASA: International Institute for Applied Systems Analysis, 在オーストリア) において、「Sources of Economic Growth」という古くて新しい課題について、世界 15 カ国から 44 人の専門家が集まって討議が行われました。討議の対象は、技術革新、エネルギー・環境制約、人口・人材、災害、福祉・健康・幸福、統治力等に及び、それらの多面的なシステム分析について討論されました。SIMOT からはセンター長 渡辺千仞教授が参加・研究発表を行いました。



コラム

基礎技術を製品化するための技術

SIMOT 研究センター センター員/運営委員
東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 宮川 雅巳



英国の微生物学者フレミング博士がアオカビからペニシリンを発見したのは 1928 年である。博士は人道上見地から製造特許を申請せず、発明を広く一般に公開した。米国では 1941 年から、日本でも戦時中にペニシリンの製造が始まっている。当時、ペニシリンは高価で、入手しにくい薬だった。理由は大量生産できなかったからである。ペニシリン製造での歩留まり向上に実験計画法が多大な貢献をしたことは、よく知られている。その結果、現在の歩留まりは当時の 2,000 倍以上になった。これによって生産コストが 2000 分の 1 になったわけである。一方で、50 年前には 60 社以上あったペニシリンの製造企業は現在 2 社を数えるのみである。生産性の向上に敗れた企業は撤退する定めにある。

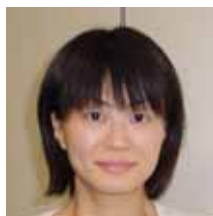
私はほぼ 20 年間に渡って、工業における生産性向上のための実験計画法の研究に従事してきた。どんな素晴らしい機能をもった基礎技術でも、それが製品化され、それを必要とする消費者に行き渡るためには、別な技術が必要である。このような技術は化学工業、機械工業、電気工業などに共通するもので、経営工学の一翼を担ってきた。また、この種の技術は人種・習慣・風土などには依存しない。「技術」とは本来そういうものだ。基礎技術が高度になればなるほど製品化の技術も高い水準が要求される。意欲ある若手研究者のこの分野での活躍を期待している。



学生の日

日本人と洋服

SIMOT RA 博士課程 3 年 葉山 雅



季節の変わり目にはいつも「きものを着なくなった日本人は洋服を着こなせているのだろうか」ということを思います。弱々しい骨格に平面的な体つき、要は昔ながらの日本人体型である私の個人的事情を差し引いても、「何を着るべきか」についてつきつめようとするとやはり、日本人は長い年月に培われた洋服文化を消化して自らの創造の糧とする段階には達していないのではないか、という疑問に行き当たってしまうのです。

先学期の SIMOT 講義中に統合業務パッケージの導入に伴う困難について「洋服に体を合わせる」という比喻での説明がありました時、「システム」と「そのシステムを使用するシステム」の齟齬の問題は、今日の種々の社会的事象の根底に共通してあるのではとふと思いました。そして SIMOT のねらいである「共進的ダイナミズムの解明」はそのような社会的齟齬の解消を促すものであり、SIMOT の射程が従来の経営学の範疇にとどまらないことを感じました。今後 SIMOT が私たちの社会の創造性の増進に貢献し得ることを期待しています。





SIMOT とは・・・

「インスティテューショナル技術経営学 (Science of Institutional Management Of Technology)」のそれぞれの頭文字をとった略称で、「サイモット」と読みます。日本の技術経営が本来機能を回復し、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。

■ 最近の動き ■

海外出張

渡辺 11月18日～22日 オーストラリア 豪州工学アカデミー年次総会

飯島 11月17日～23日 中国 [上海(復旦大学、上海交通大学), 成都(電子科学技術大学)
北京(北京大学、清華大学)]

海外研究者招聘

渡辺 11月6日～16日

Alexey I. Smirnov (露 モスクワ国立大学)

Lilia N. Lukianova (露 モスクワ国立大学)

■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 12月例会

日時 12月12日(月) 18:00～20:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 新時代の質マネジメントシステムモデル～持続可能な成長
- 「インスティテューショナル技術経営学」への示唆

講師 飯塚悦功 氏 (東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授)

第2回 年次国際シンポジウム

日時 2005年2月27日(月)、28日(火)

場所 東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム

「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51

東京工業大学・大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
西9号館 208B号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: nakane@me.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>

編集者: 菊池 隆